

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】平成23年2月17日(2011.2.17)

【公開番号】特開2009-241901(P2009-241901A)

【公開日】平成21年10月22日(2009.10.22)

【年通号数】公開・登録公報2009-042

【出願番号】特願2008-94015(P2008-94015)

【国際特許分類】

B 6 2 J 99/00 (2009.01)

B 6 2 J 23/00 (2006.01)

B 6 2 J 17/06 (2006.01)

【F I】

B 6 2 J 39/00 L

B 6 2 J 39/00 H

B 6 2 J 23/00 A

B 6 2 J 17/06

【手続補正書】

【提出日】平成22年12月24日(2010.12.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ヘッドパイプを前方から覆うフロントカバーを含む前部車体カバーと、その内側に収容されヘッドパイプの前方へ配置されるラジエータとを備え、フロントカバーのラジエータ前方部分に空気取入口を設け、ラジエータを冷却した温排風を排出するための排風口を前部車体カバーのうちラジエータ後側を覆う部分の左右に設けたスクータ型車両の導風構造において、

前記排風口を下に長い形状とし、その排風口の前縁の少なくとも一部が側面視でラジエータに重なるように配置するとともに、

前記排風口の前縁におけるラジエータと重なる部分から上方に位置する前縁が側面視でラジエータの長手方向に対して緩やかな傾斜で後方斜め上方を指向するように延び、さらに排風口の後縁のうち少なくとも上部をヘッドパイプの軸線に略平行で、かつヘッドパイプの前縁に沿うように位置させたことを特徴とするスクータ型車両の導風構造。

【請求項 2】

前記排風口のラジエータの重なる部分よりも下部の前縁及び後縁を、後方へ斜め下がりに傾斜させたことを特徴とする請求項 1 に記載したスクータ型車両の導風構造。

【請求項 3】

前記排風口の前縁及び後縁の上部と下部とをそれぞれ曲線で連結したことを特徴とする請求項 2 に記載したスクータ型車両の導風構造。

【請求項 4】

シートとこのシートに着座した乗員の足を前方から覆うレッグシールドを備え、前記排風口は前記レッグシールドに設けられ、かつ前記シート上面と略同一高さに配置されるとともに、前記レッグシールドの背面側を側面視で前記排風口に沿って前方に凹んだ形状にしたことを特徴とする請求項 3 に記載したスクータ型車両の導風構造。

【請求項 5】

前記排風口に車両前後へ延びる複数の羽根板を有するルーバーを設け、この羽根板の肉厚を、内側で薄く、外側で厚くしたことを特徴とする請求項 1～4 のいずれかに記載したスクータ型車両の導風構造。

【請求項 6】

前記排風口の後縁の上部と下部は、側面視で前記ヘッドパイプと重なるように配置されることを特徴とする請求項 1 に記載したスクータ型車両の導風構造。

【請求項 7】

前記ラジエータの上方に設けられたホーンと、前記ラジエータの前面下部に設けられたリザーブタンクと、前記空気取入口の上部前面を覆うフロントアッパーカバーとを備えることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載したスクータ型車両の導風構造。

【請求項 8】

前記空気取入口の左右にウインカを設けるとともに、これらのウインカは側面視で前記空気取入口に沿って形成されることを特徴とする請求項 1～3 のいずれかに記載したスクータ型車両の導風構造。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

請求項 5 の発明は、上記請求項 1～4 のいずれかにおいて、前記排風口に車両前後へ延びる複数の羽根板を有するルーバーを設け、この羽根板の肉厚を、内側で薄く、外側で厚くしたことを特徴とする。

請求項 6 の発明は、上記請求項 1 において、前記排風口の後縁の上部と下部は、側面視で前記ヘッドパイプと重なるように配置されることを特徴とする。

請求項 7 の発明は、上記請求項 1 又は 2 において、前記ラジエータの上方に設けられたホーンと、前記ラジエータの前面下部に設けられたリザーブタンクと、前記空気取入口の上部前面を覆うフロントアッパーカバーとを備えることを特徴とする。

請求項 8 の発明は、上記請求項 1～3 のいずれかにおいて、前記空気取入口の左右にウインカを設けるとともに、これらのウインカは側面視で前記空気取入口に沿って形成されることを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

図 16 に明らかなように、ハンドルカバー 10 の背面（乗員に対面する側）左右には、ブレーキ液の残量確認窓 91 が設けられている。残量確認窓 91 はマスターシリンダ 90 と重なる位置に設けられ、残量確認窓 91 を通してマスターシリンダ 90 のブレーキ残量を確認できるとともに、後述するエイミング調整時における調整用工具（ドライバー）を差し込むためのエイミング調整窓を兼ねている。

7b はヘッドライト用開口 7a が形成された中央部から左右へ延出する腕部であって、ハンドル 9 の左右へ延びる部分を覆う。7c はメータ穴であり、ここにメータ（図示省略）の表示部が臨む。7d はヘッドライトの取付ボス、7e は各種スイッチ類のボタン穴である。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

図17はヘッドライト11の正面図であり、ヘッドライト11の外周はケース92をなし、このケース92の周囲に取付部93が突出し、それぞれハンドルカバー10の取付ボス7d（図16）ヘビス等で取付けられることにより、ヘッドライト11がハンドルカバー10に支持されている。

ヘッドライト11の中央にはバルブ94が位置し、バルブ94の左右に光軸調整支点部95、第1光軸調整部96が設けられている。光軸調整支点部95及び第1光軸調整部96はそれぞれ後述するリフレクタのケース92に対する支持部であり、それぞれの中心を通る水平線H上に位置する。光軸調整支点部95は光軸調整時の回動中心をなし、第1光軸調整部96は残量確認窓91を通して後方から操作される水平方向の光軸調整軸をなす。さらに、光軸調整支点部95の下方で、かつ光軸調整支点部95の中心を通る垂直線V上に上下方向の第2光軸調整部97が位置する。第2光軸調整部97は前方から調整できる。

。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0049

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0049】

したがって、このエイミング調整構造によれば、上下及び左右方向のエイミング調整が自在になるとともに、前方及び後方から調整することができる。

なお、第2光軸調整部97はハンドルカバー10の後方側から調整することもできる。この場合には、ハンドルカバー10の背面側にエイミング調整窓を設ければよい。